

デジタル教科書を活用した音読活動と学習評価 (7~9年生, ラウンド3)

①読む ②個・学 ③TV ③デジ教 ④Google Classroom

【ここがポイント!】

①「デジタル教科書をフルに活用」

生徒はデジタル教科書を使用し、単語や本文の音声を何度も確認し、聞いた音声を模倣しようとすることで自信を持って音読練習に取り組む。

②「録音・録画機能の活用による学習改善」

生徒は「音声を模倣したり、登場人物になりきって読んだりする」というゴールに向かって、デジタル教科書の音声と自分が録音した音声を比較し、自己調整しながら学習を進める。

③「パフォーマンステストの評価基準の共有」

教師は Google Classroom で生徒とパフォーマンステストの評価基準を共有する。生徒は、本文を音読した音声を録音し、Google Classroom に提出する。

【実践の目標】

自信を持って〇文(自分で定めた目標)以上読むことができる。

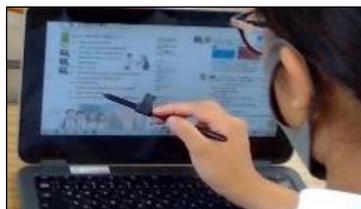
【実際の場面】

1. 大型テレビでポイントを共有する

教師はそれぞれの Unit の初めに、教科書の本文を大型テレビで表示し、英文を見ながら音と文字の一致を行った。読んでいる部分が明確化され、目や指で英文を追おうとする生徒の姿が見られた。

2. 音声をくり返し聞きながら目標を設定する

生徒は一斉に音声を聞きながら、デジタル教科書の読めそうな文や単語にマーカーを引いたり、印を付けた。デジタル教科書の書き込みを基に「〇文以上読む」という目標を持って音読練習に取り組んだ。



3. 自分のペースで音読する

デジタル教科書の音声を聞いて、各自のペースで音読をした。スピードを調整してシャドーイングする生徒や、新出単語を繰り返し聞いて発音する生徒など、自分に合った方法で音読をしている姿が見られた。ストーリーの内容が聞き取れない生徒は、ドラマやピクチャーカードを見ながら内容理解を進めた。

4. デジタル教科書の音声と比較する

録音した音声を聞きながら教科書本文を見て、正しく読めているか、すらすら読めているかを確認した。自分の発音を聞き、納得がいくまで何度も撮り直し、改善を行った。また、デジタル教科書にマーカーを引いた部分が本当に読めているのか、デジタル教科書を見ながら音声の確認を行った。最後に Google Classroom を用いて音声を提出した。生徒は自己の学習を振り返り、「〇文以上読めていた」「〇〇という単語が難しかったけど読めるようになった」など達成感を感じていた。

5. 学習評価を行う

Google Classroom に音読の評価基準を載せ、生徒と共有した。授業者は Classroom に提出された音声について評価を行った。録音・録画の機能を用いることで評価にかかる時間を短縮するだけでなく、生徒の音声や映像を繰り返し聞いたり視聴したりすることができた。

【成果と課題】

【成果】

- 生徒が録音した自分の音声とデジタル教科書の音声を客観的に比べながら学習を進めることができた。
- デジタル教科書の音声のように読もうとしたり、感情を込めて読もうとしたりする生徒が増えるなど、読むことへの意欲が高まった。

【課題】

- ほとんどの生徒は自分で考えて音読練習に取り組むことができていたが、何度も聞いたり練習したりしても分からないという生徒もいた。自分で学習方法が決められない生徒への適切な声かけが必要だと感じた。

福山市立鞆の浦学園





動画の共有を活用したスピーキング指導の工夫
(NEW HORIZON English Course 3 Unit 3 Animals on the Red List)

- ①話・や ①話・発 ②評価 ③タブ ③TV ③デジ教

【ここがポイント!】

④ロイロノート

①「動画を活用した学習課題の設定」

事前にALTに協力してもらい、イベント案内のポスターの内容について、ALTがJTEに質問をしている動画を作成し、生徒に提示する。動画を活用することで、生徒は、ALTの言葉からだけでなく、声や表情などから、ALTの質問の意向をとらえ、目的・場面・状況等を明確にした学習課題を設定することができる。

②「『評価』を生かしたスピーキング活動の充実」

タブレット端末を用いて、自分の発話の様子を撮影することで、何度も個人で見直し、自分の表現を練り直ししながら、自己調整することができる。また、ロイロノートを活用し、動画を共有することで、生徒と生徒、生徒と教師の間で、効率よく評価することができる。

【実践の目標】

本文の内容をもとに、地域に生息する絶滅危惧種に関する情報を伝えるなど、ALTの質問に対して適切に応答することができる。

【実際の場面】

1. 動画を活用し、学習課題を設定する

校内に貼られたイベント案内のポスターを見たALTが、ポスターの内容に関してJTEに質問をしている動画を視聴した。そのやり取りから目的・場面・状況等を理解し、解決方法について提案した。

2. ALTへの返事を個人で録画する

ALTの質問に対する返事を即興で考えさせ、タブレット端末を用いて撮影した。その際、ALTの動画をロイロノートで生徒に送り、ALTの質問の意向を意識させるよう工夫した。



3. 教科書の音読

デジタル教科書のマスク機能を活用し、教科書の音読を行った。発音の確認や内容把握だけでなく、ALTへの返事に活用できそうな表現にも着目させた。

4. グループで共有し、アドバイスし合う

ロイロノートの生徒間通信機能を活用し、個人で撮影した動画をグループで共有した。互いの動画を見ながら、ALTの質問の意向を踏まえた返事になっているか、伝えたい内容に適した表現となっているか確認し、改善点についてアドバイスし合った。

5. 返事の内容を推敲し、撮り直す

グループからのアドバイスをもとに、返事の内容を推敲し、再度撮影した後、ロイロノートの資料箱に提出した。

6. 全体での共有

数名の生徒の動画を大型テレビに映し、全体で視聴し、工夫したポイントについて交流した。

7. 振り返り・教師からのフィードバック(後日)

撮り直した動画に加え、「英語で伝えられなかった表現」を提出させ、後日、教師がそのデータに評価を貼り付けて返却した。このフィードバックによって生徒はさらに豊かな表現にしようとする意欲を高めていた。

【成果と課題】

【成果】

- 文章で表現すると複雑な内容でも、動画を用いることで、生徒に目的・場面・状況等を効率的に理解させることができた。
- 録画や共有の機能を用いることで、生徒が表現の幅を広げたり、内容を追加したりするなど、言語活動を充実させることができた。また、自己評価・相互評価、教師による評価を客観的かつ速やかに行うことができた。

【課題】

- 自分の音声や映像を視聴することに慣れていない生徒も多いため、日ごろから動画を活用した学習活動を取り入れ、表現の幅を広げられるようにする。

Chromebook を活用したディベート活動 (NEW HORIZON English Course 2 Unit3 My Future Job)

①話・や

②個・表

②協・整

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④Google Jamboard

「Chromebook の有効利用」

①「Google Jamboard を活用した主張の整理」

最初に、Jamboard を利用する。各自1枚与えられた Jamboard に表現したい内容と根拠内容を貼り付ける。それを賛成派・反対派グループ内で見合い、さらによい表現やアドバイス、感想を書いた付箋を貼り交流をする。賛成派・反対派の中で共有することで、主張したい内容を深めたり、伝えたい表現の幅を広げたりすることができる。

②「分かりやすく説明するためのスライド作成」

次に、伝えたい内容を相手に分かりやすく説明するため、写真や単語のみを画面に表示するなどの工夫を行い、スライドを作成する。

③「指導者による評価」

最後に、ディベートを撮影し、後日指導者がそれを評価する。

【実践の目標】

不完全なロボットについて、根拠を基に、自分の意見を伝えることができる。

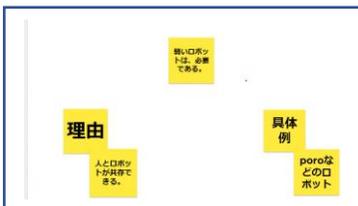
【実際の場面】

1. テーマについて賛成か反対かを決め、理由となる根拠内容を調べる

「不完全なロボットが必要だ」というテーマについて、賛成か反対かを決め、立論の根拠となる内容を図書資料やインターネットを活用して調べた。

2. Google Jamboard を活用する

各自与えられた Jamboard を利用し、調べた内容や伝えたい表現を付箋に書いて貼った。



3. グループ内で交流する

各自作成した Jamboard を、賛成グループ、反対グループ内で共有し、さらによい表現やアイデア、アドバイス等を付箋に書いて交流した。その後、自分のボードに貼られた付箋を参考に、自分の根拠文や表現を練り直した。

4. ディベートの練習をする

Jamboard を参考に練り直した表現や想定した立論に対する反論内容について話し合い、練習を行った。

5. ディベートに向けて準備を行う

立論の準備として、根拠内容を基に主張したい内容についてスライドを作成した。その際、相手に伝わりやすいように、文字だけでなく写真や記号を利用して内容をまとめた。

6. ディベートの練習試合を行う

提出された動画から、指導者がよいやり取りをしていたグループを選び、全体で共有した。その後、どのような点がよかったか、指導者からのフィードバックを行った。

7. 評価を行う

後日、教師用フォルダに提出された動画と各生徒が作成した Jamboard について指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

- Jamboard を活用し、賛成派・反対派ごとのグループ内で互いに意見を交流することで表現の幅と質が向上した。
- スライドを活用することで、自分たちの主張が相手により伝わりやすくなった。
- 提出された動画を評価することにより、これまで難しかった「話すこと」の評価を指導者のタブレット上で行うことができるようになった。

【課題】

- 生徒が撮影した動画を基に評価するため、より明確なルーブリックを作成するなど、評価の精度を上げていく必要がある。

竹原市立忠海学園



Point 1

become more efficient

より効率的になる

because it works faster

動作が早いから

In the US, drones are dropping pesticides to improve efficiency

米国では、効率を改善するためにドローンが農薬を投下しています

Point① Robot and human live together.

Because

1. cooperate.
2. help each other.
3. communicate with us.



タブレットを活用した発表までの活動と学習評価 (NEW HORIZON English Course 3 Let's Talk 1 はじめての出会い)

①話・発

②協・整

②評価

③タブ

④SKYMENU
Cloud

【ここがポイント！】

①「タブレットを活用」

A L T, 生徒の役に分かれて対話をする。その際に, A L Tの出身地など詳しい情報を収集し, 対話における単語の発音や伝えたい表現についてタブレットで調べる。また, 互いに対話を撮影し, 何度も確認し, 練習を行う。撮影した動画を提出し, 指導者はそれを評価する。

②「発表ノートの有効活用」

「SKYMENUCloud」というアプリの「発表ノート」を利用する。タブレットに対話を録画し, 自分たちや他のペアで見合い, 付箋を使ってタブレット上でコメントする。生徒はそれらのコメントがまとめられた「発表ノート」を指導者に送信する。指導者は, それを評価する。

【実践の目標】

初対面の相手に配慮して, 歓迎の気持ちや自分のことを伝えるなど対話を続けることができる。

【実際の場面】

1. 単元の見直しをもつ

教科書の本文を通して, 新しく着任したA L Tを歓迎する気持ちを伝える表現や初対面のA L Tに自分のことをどのように伝えたらよいか考え, 見直しを立てた。

2. A L T, 生徒の役に分かれて対話をする

タブレットで情報(A L Tの出身地について詳しい情報など)を収集し, 単語の発音や伝えたい表現を各自調べた。



3. タブレットにペアでの対話を録画する
互いにタブレットで対話を撮影した。

4. 録画した対話を自分たちや他のペアで見合い,
タブレット上で付箋を使ってコメントする
「発表ノート」を活用した。初対面の相手に自分のことをどのように伝えているか, 相手の意向や状況をどのように尋ねているかという視点で, タブレット上でコメントした。

5. ペアで改善点を交流する
コメントを参考に, 対話の改善点を話し合い, 表現を練り直した。

6. 対話をする
練り直した表現を交えて, 対話を各ペアで行った。その後, グループになり, 互いに対話を撮影して, 指導者に送信した。

7. 評価を行う
後日, 提出された動画とコメントがまとめられた「発表ノート」について指導者が評価を行った。初めは, 自分が伝えたいことのみを伝える生徒が多かったが, 学習を重ねることで, 相手意識をもって対話を行うことができる生徒が増えた。

【成果と課題】

【成果】

- 「発表ノート」を活用し, 意見を交流することで表現の質が向上した。また, 撮影した動画を確認し, 何度も練習をすることで言語活動の量や質が向上した。
- 提出された動画を評価することにより, 「話すこと」の評価を指導者のタブレット上で行うことができた。

【課題】

- 意図的に生徒がタブレットを使う機会を設定し, 言語活動の充実に向け, より効果的な活用方法について研究を進めていく必要がある。

大竹市立玖波中学校



一人1台端末を活用したやり取りの練習と改善への工夫 (NEW CROWN English Series 1 Lesson 3 Our New Friend)

①話・や

②一斉

②個・学

②個・表

③タブ

【ここがポイント！】

④Google Jamboard

①「Google Jamboard の背景と付箋の機能の活用」

自分が紹介したい好きなものや人などの写真を Jamboard に貼り付ける。次のページにその写真の内容を説明する時に使う語句を付箋で貼り付ける。写真を見せながら相手に紹介し、そのやり取りを繰り返す中で、使える語句の付箋を増やしていく。

②「録画での振り返りによる自己の取組の改善」

自分のやり取りの様子を映像で振り返ることで、自分の発話内容を客観的に見ることが出来る。そこで、自分の改善すべき点や言えなかった表現を明確にし、次時に改善ができるよう自分で調べたり、教師に質問をしたりする。

【実践の目標】

Jamboard 上の写真を見せながら、好きな有名人やキャラクターについてのクイズを出し合い、やり取りを続けることができる。

【実際の場面】

1. やり取りのための Jamboard の準備

自分の好きな有名人やキャラクターの写真を Jamboard に貼り付けた。次のページにその写真の内容を説明する時に使う語句を付箋で貼り付けた。

2. モデルとなるクイズの確認

教師によるクイズ、また、前日の授業で行ったA L Tからのクイズの様子を録画したものを確認し、クイズの出題の仕方を理解した。



3. ペアで写真を使ったやり取り

写真の一部を見せながら“Who”を使った3ヒントクイズをペアで行った。クイズだけでやり取りを終えるのではなく、その内容に関連する会話を1分間続けることを目標にして取り組んだ。

4. 中間評価

代表のペアが全体の前でやり取りを行い、良い点や改善点を生徒同士で考えるなどして、全体で共有した。

5. やり取りの様子の録画

3人組を編成し、2人のやり取りの様子を1人がタブレットで撮影した。

6. やり取りの動画の確認

ヘッドセットを使って個人で自分のやり取りの様子を映像と音声で確認した。

7. 付箋の追加

やり取りの中で自分が言いたかったけれど、言えなかった表現や新たに自分が使った表現などについて付箋を追加し、内容を整理した。

【成果と課題】

【成果】

○単元を通して、様々な題材を用いて Jamboard を使ったクイズを繰り返し行ったため、生徒たちは効果的にタブレットを活用し、自分のやり取りの様子を見たり、付箋を使ったアイデアマッピングを作ったりすることができた。また、どうすればやり取りを継続させることができるのか考えることができ、ペアでやり取りを続けようとする意欲の向上につながった。

【課題】

○生徒同士が Jamboard を共有する時間を設けたり、この単元で作った付箋を整理したりする時間の確保が必要である。そのことにより生徒の使える表現の幅が広がり、更なる生徒の言語活動の質の向上、量の増加が見込まれたと考えられる。

東広島市立河内中学校



タブレットを活用した「なりたい職業」プレゼンまでの一連の活動と学習評価 (NEW HORIZON English Course 2 Unit 3 My Future Job)

①話・発

①統合

②個・学

③タブ

④Google スライド

【ここがポイント！】

④Google Jamboard

【考えを表現するために、タブレットの機能を生かし、言語活動を充実させる】

① 情報収集・整理の時間を充実

自分のなりたい職業や興味のある職業について、インターネットで情報を多く収集させる。収集した情報は、自分が使いやすいと思っているアプリケーション（ジャムボードやスライドなど）にまとめさせる。また、発音が分からない単語や熟語について必要に応じて調べさせる。

② 表現する内容の充実

プレゼンテーションにあたって、アプリケーションの限定はせず、生徒たちに選ばせる。付箋機能で話の順序が分かるようすることや画像を上手く使うことで、視覚的な効果を利用して、相手に分かりやすく表現することができた。さらに、録画機能を使って、自分のプレゼンテーションを録画して自己評価を行い、よりよく表現できるようにした。

【実践の目標】

自分のなりたい職業や興味のある職業、あるいは自作の職業について、プレゼンテーションをすることができる。

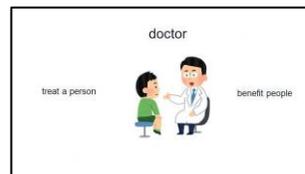
【実際の場面】

1. 情報や必要な表現を調べる

自分のなりたい職業の仕事内容や必要な資格、やりがいなどを調べた。その際、新出表現については音声も一緒に調べさせた。

2. アプリケーションを自分で選び、作成する

多くの生徒は Google Jamboard か Google スライドを選び、作成した。Jamboard ではプレゼンテーションをするためのキーワードを付箋に書いて使ったり、スライドでは画像を有効に使ったりして、より分かりやすいプレゼンテーションを意識して作成した。



3. ペアを替えながら、繰り返し練習する

何度もペアを替えながら練習し、表現を練り直し、Google Jamboard や Google スライドの内容について、互いにアドバイスし合い、プレゼンテーションの質を高めていった。

4. プレゼンテーションの撮影を行う

ペアにプレゼンテーションをする際、自分自身の到達度を客観視できるように、録画機能で動画を互いに撮影し合い、授業の終わりに振り返りができるようにした。

5. 評価を行う

相手意識をもたせるために、動画を撮影して提出させるのではなく、指導者の前でプレゼンテーションを行わせ、その場で評価を行った。

6. 生徒自身で振り返り・評価を行う

Google Forms の機能を活用して、クラウド上で生徒に振り返り・評価を行わせることで、指導者に瞬時にデータが集まり、次時への指導や全体へのフィードバックにつなげることができた。

7. プレゼンテーションした内容を文字に起こさせる

即興性を目指し、キーワードを基に発表させた。「話すこと」と、「書くこと」の指導をつなげるために作成した資料を基に、内容を文字に起こさせた。

【成果と課題】

【成果】

- 英語やジェスチャーだけでなく、自分の考えを画像等の資料とともに伝えることで、相手により分かりやすいプレゼンテーションを行うことができるようになった。
- 前時に撮影した映像を、次時の導入で確認させることで、客観的に自分の姿を振り返ることができ、練習を再開する時の目標を設定することができた。

【課題】

- ループリックを作成して評価を行ったが、指導者がループリックについて理解を深めておく必要があった。ループリックを育成したい資質・能力に対応させ、評価の質を向上させていく必要がある。

廿日市市立野坂中学校



Unit3 My future job プレゼンアンケート

shat07@shatsakoshi-edu.jp アカウントを切り替える

このフォームを送信すると、メールアドレスが記録されます。

*必須

クラス・名前を入力してください。*

氏名を入力

あなたは英語の勉強が好きですか。*

好き

どちらかと興味は好き

どちらかと興味は好きではない

好きではない

タブレットを活用したスピーチに向けての一連の活動と評価 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Our Project)

①話・発

②個・表

③タブ

④録画

【ここがポイント！】

「タブレットの録画機能を使う」

「あなたの知らない私」というタイトルの自己紹介を行う」ことを目標にスピーチを行う。「Key Word (メモ)を見ながら話す」段階から、「原稿を見ずに話す」段階へと、活動の難易度を上げてスピーチに取り組みさせる。2度、タブレットで自分のスピーチ動画を撮影し、2つの動画を比較することで、生徒が自己の成長を実感できるよう自己評価する活動を行う。

【実践の目標】

「ミニスピーチ選手権！」

自分のことについて Key Word を見ながら伝えることができる。

【実際の場面】

1. 動画を活用し、自己紹介をする動機付け

スピーチを意欲的に行う動機付けができる動画を視聴し、英語で話す良さを感じさせた。

2. 1度目の撮影

タブレットの録画機能を使い、Key Word を見ながら1度目の撮影を行った。撮影後、自己評価を行った。



3. Round 1 (スピーチ練習)

1度目の撮影での改善点を踏まえ、さらに3度相手を変えてスピーチ練習を行った。また、毎回スピーチ後は、互いに評価とフィードバックを行い、改善しながら取り組んだ。

4. Strategy Meeting (作戦会議)

ここまでの練習成果をペアで共有するとともに、よりよいスピーチにするため、内容面に焦点を当てた指導を行った。具体的には、教師とインタラクションを行い、相手にとって分かりやすいスピーチにするためには、話す順序といった“内容のつながり”を考えることの大切さに気付かせた。その後、自分のスピーチを考え直す作業を行った。

5. Round 2 (スピーチ練習)

作戦会議を通して再考した発表内容のつながりを意識し、2度相手を変えてスピーチを行った。

6. 2度目の撮影

2度目の撮影を行い、自分自身で再度自分のスピーチの評価を行い、その後、身に付いた力と次への改善点を振り返った。

【成果と課題】

【成果】

○1時間の中で2度撮影することで、自分の「話す力」を感覚的に評価するのではなく、客観的に評価することができた。1度目の撮影で自己評価を「C」としていた生徒が2度目の撮影では「A」にするなど自分の努力に価値付けできる授業となった。

【課題】

○タブレットを使うことが目的とならないよう、どのようにしてタブレットを効果的に使うのかを考える必要がある。



タブレットを活用して思考を深め、生徒自身が「やり取り」を振り返る
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Our Project1 あなたの知らない私)

- ① 話・や ② 評価 ③ Web カメ ③ タブ ④ Google スライド

【ここがポイント！】

④ Google Jamboard

① 「思考ツールとしてのタブレット活用」

情報を収集するために、インターネットを使って調べたり、スライドに写真を貼り付けたりする。また、思考を深めるために、Jamboard でマッピングをしたり、話の構成を考えて、互いに付箋機能を使ってアドバイスを伝え合ったりする。

② 「自分のやり取りを分析するための録画機能の活用」

自分のスピーチやA L Tとのやり取りをタブレットで録画する。録画したものを見返して、どのように表現したり応答したりしていたか書き取り、自己評価につなげる。

【実践の目標】

内容を整理して、まとまりのよいスピーチをし、A L Tの質問に答えることができる。

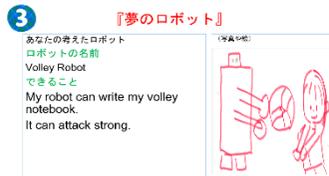
【実際の場面】

1. 教科書の音読を繰り返し行う

教科書の本文は、パフォーマンステストに向けて、正確に読めるように繰り返し練習した。分からないところはデジタル教科書で音声を確認し、音読した動画を Google Classroom に提出させた。

2. 複数のテーマでスライドを作成する

「身近な人の特技」「特殊な能力をもつ動物」「理想のロボット」など、複数のテーマでそれぞれ情報や画像を調べ、スライドを作成した。



3. マッピングで話したい内容を決める

Jamboard を利用し、2のテーマも参考にしながら、「あなたの知らない私」というテーマで話したい内容を付箋に書いて貼った。

4. 交流・アドバイスをする

付箋をもとに、英語に直し、グループで共有した。「文構造に関すること」と「構成に関すること」で色分けをした付箋に互いアドバイスを書いて貼り、文章を再考した。

5. グループで発表し合う

完成した文章を、スライドを見せながらグループで発表した。その際、「反応」、「質問」を班員にさせ、パフォーマンステストの際の練習となるようにした。

6. A L Tとやり取りをする

練習を繰り返した後、A L Tとやり取りをした。その際、スライドをテレビに映し、タブレットで、自分のやり取りの様子を撮影した。

7. 自己評価を行う

パフォーマンステストが終わった生徒から、自分のテストの様子を見返し、良かった点やA L Tの質問にどのように答えていたかなど、自己評価を行った。

【成果と課題】

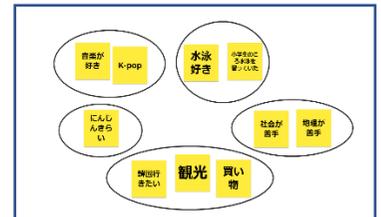
【成果】

- 音読で読めないままにせず頑張ろうとする姿が増えた。
- 事前にテーマを送っておくことで、内容で悩む時間が省けた。
- ICTを活用することにより、効率よく多くの人数と交流できた。
- 自分の話した内容を見返すことを通して、表現内容の変容を正確に振り返られるだけでなく、態度や表情などにも気が付くようになった。

【課題】

- Jamboard は紙に書くことに比べ、付箋を移動したり消したりできるので、教師が生徒の思考の過程や、加筆・修正の様子など、変容を見取ることに課題がある。

海田町立海田中学校



I like music.
I like K-Pop.
I don't like carrot.
I want to go to Korea.
I want to go shopping.
I like swimming.
I'm not good at social studies.
I don't like gyography.



タブレットを活用した質問の作成、回答、自己表現 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Program 2 Think Good Night, Sleep Tight.)

- ① 書く ② 協・整 ③ タブ ④ TV ⑤ Google スライド

【ここがポイント！】

①「本文の内容について発問を作成する」

Google スライドを活用し、個人で発問を考え、思考を可視化する。作成した発問について、文法上の間違いや問いの立て方などを協働的に確認し合い、一人1問以上の発問を作成する。

②「発問を選択して解答する」

作成された発問の中から答えたいものを選択して、本文の内容を読み、答える。ノートに書いた解答を共有することで、友だちの表現から学ぶことができる。

【実践の目標】

本文の内容の理解を深め、様々な質問に答えながら自分の考えや感じたことを表現することができる。

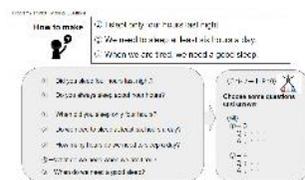
【実際の場面】

1. Google スライド を使用して質問を作成する

音読後、本文の内容を分担し文章に関する様々な質問 (Yes/No question, WH question, Open-ended question) を作成した。

2. 協働学習を行う

作成した質問を互いに読み合い、動詞の形 (原形、過去形等) や前置詞の適切な使用など、文法上の間違いや気付きを伝え合った。



3. 中間評価をする

指導者が、作成した質問の内容や文法について評価し、フィードバックを行った。

4. 質問を選択し、繰り返し音読をする

質問に答えるために本文の必要な部分を繰り返し音読し、理解を深めた。

5. 質問に答える

様々な種類の質問 (Yes/ No question, WH question, Open-ended question) の中から5つ選択し、答えた。

6. 解答を評価する

質問に対して解答した。その際、自分の知っている情報、事実や自分の考え等を付け足すようにした。生徒が提出した解答は、指導者が評価した。

7. 表現の共有をする

内容や表現に関して参考となる解答をスライドに提示し、フィードバックした。

【成果と課題】

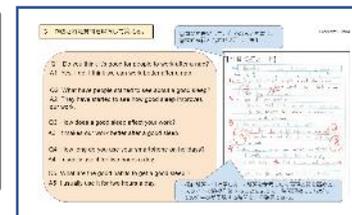
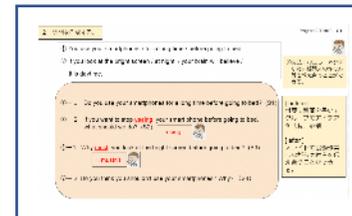
【成果】

- 思考を可視化することができ、文法上の間違いや発問の仕方等について、互いに気付きを伝え合うなど、主体的な学習を行うことができた。
- 生徒が作成した質問に答えることで、考えたことや感じたこと及びその理由等を簡単な語句や文を用いて表現し、英文の量や質の向上を図ることができた。

【課題】

- 「書くこと」に時間をかけすぎたため、「話すこと [やり取り]」とバランスよく言語活動を行うことができるよう活動の工夫が必要である。

熊野町立熊野中学校



ICTを活用して読むことの達成感を味わわせる学習活動 (ONE WORLD English Course 3 Lesson 1 Aya Visits Canada)

①読む

①統合

②協・整

②個・学

③タブ

③TV

④Google Jamboard

【ここがポイント！】

「情報整理に Google Jamboard を活用」

読解活動の前に Google Jamboard を活用して情報を整理する活動を行う。まず、本文の音声を聞き、ペアになり、それぞれが聞き取った情報を共有し、Jamboard にそれらを入力する。その後、クラス全体で各ペアの情報をつなげ意味を理解していく。Jamboard を活用して、読解前に文章の大意を把握することができたので、この後の読解活動に意欲的に取り組む生徒が多かった。

【実践の目標】

アヤのホームステイの思い出について書かれた文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。

【実際の場面】

1. 本文のリスニング（1回目）

教科書を閉じた状態で、教科書本文の音声を聞いた。

2. 情報整理

ペアになり、聞き取った英単語や表現を伝え合った。その際、Jamboard に聞き取った情報を入力した。

3. 情報共有

ペアで入力した Jamboard を基に、クラス全体で情報を共有した。その際、新たに出てきた情報があれば、その場で教員が補足説明をした。

4. 本文のリスニング（2回目）

先の活動で聞き取れた情報をヒントに、再度本文の音声を聞いた。2回目のリスニングでは、教科書会社のサイトにある導入動画を用いた。本文に関連する動画を見ながら英文を聞かせることで、更に理解を促すことができた。

5. 読解問題

ワークシートに沿って、様々な形式の読解問題に取り組みさせた。その後、個人やペアで音読練習を行い、本文内容の理解を深めた。

6. 振り返り

教科書を再び読み、読解問題の答えとなる箇所を抜き出したり、本文の重要な箇所を簡潔にまとめたりして振り返りをした。

【成果と課題】

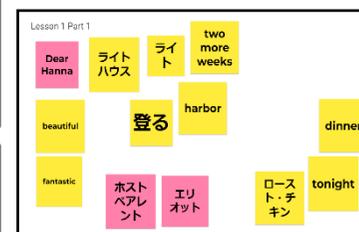
【成果】

○情報収集に Jamboard を使用することで、クラス全体で効率的に情報を共有することができた。また、一連のリスニング活動は、読解問題の足がかりとなり、積極的に読解問題に取り組む生徒が多く見られた。

【課題】

○読む活動で ICT を使用することができなかったため、読む活動を効果的に行うために ICT の活用方法を更に検討していきたい。

大崎上島町立大崎上島中学校



教育出版株式会社 “令和3年度版中学校まなび
リンク ONE WORLD English Course 3”

Chromebook を活用した情報収集・整理と客観的な振り返りによるプレゼンテーション練習 (NEW HORIZON English Course 2 Unit2 Food Travels around the World)

- ①話・発
- ②個・表
- ②協・整
- ③タブ
- ④Google Jamboard

【ここがポイント！】

①「Google Jamboard を活用した情報収集、内容の整理」

Google Jamboard で設定したテーマについて、発表しようと思う内容を貼り付けたり、友達のテーマについて知りたい内容などを貼り付けたりすることで、聞き手を意識した構成を考えることができる。また、貼り付けられた英文作を学級で添削することができる。より正確でわかりやすい英文を完成させることができる。

②「動画撮影の活用」

料理の歴史についての発表をペアで撮影した後に、単語の発音や表現の方法について動画を再生して繰り返し確認する。互いに発表を撮影し合い、何度も練習して、最も良い動画を提出し、指導者はそれを評価する。

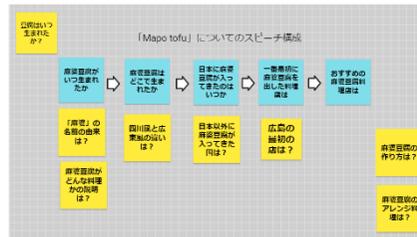
【実践の目標】

ある料理について、自分が伝えたい内容を相手が正しく受け取れるように、語彙や表現を工夫して伝えることができる。

【実際の場面】

1. Jamboard で発表内容の整理を行う

自分が紹介したい料理について、何を話すのかを決め、その内容を貼り付けさせた。その際、生徒が互いに知りたい内容を貼り付けることができるよう、各自の編集シートをいつでも見ることができるようにした。このような工夫により、他者が興味をもつような内容になるよう整理させ、発表の構成を考えさせた。



2. 英文を作成する

Jamboard で内容を精選させた後、発表で必要となる語彙やキーワードを貼り付けさせた。

その後、Jamboard の構想を基に Google スライドで発表原稿を作り、互いに添削させることで翻訳機能を可能な限り使用せず、既習内容を活用した英文となることをねらった。

3. 発表の練習をする

Chromebook を使って、発表練習を各自行った。続いて、各ペアで互いに練習を行い、アドバイス等を交流し合った。その後、撮影を複数回繰り返し、何度も見直して工夫改善に取り組んだ。

4. 単元課題の評価に使う動画を選ぶ

撮影した動画の中から、ループリック評価に基づき、各自で最も良いと思う動画を選択させ、指導者に送信させた。

5. 全体場でプレゼンテーションを行う

練習した発表を全体場で披露した。互いに関わり合いながら作成した内容なので、英語であっても理解しやすく、意欲的に発表を聞くことができる。その聞き手の姿勢が発表者にポジティブに影響し、パフォーマンスが向上することをねらった。

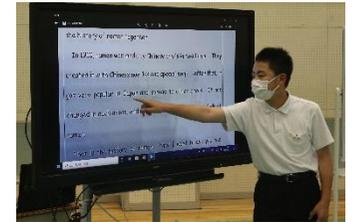
【成果と課題】

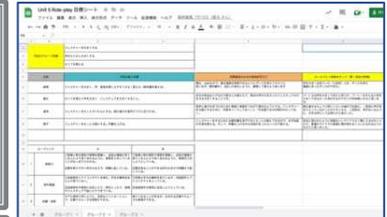
【成果】

- ICTを活用することで、時間の効率化を図り、互いに意見を交流させることが容易になったことで「学び合い」が進み、言語活動の充実につながった。
- 互いに添削やアドバイスをしやすくなったことで、翻訳機能に頼りきりだった生徒も既習内容を使って発表することができた。
- 録画機能を使うことで自分のパフォーマンスを客観的に評価することが可能となり、主体的に改善に向けて取り組むことができた。

【課題】

- 操作に慣れていない生徒にとっては活動内容が理解しにくく、困り感を持つ生徒もいた。
- 一連の学習活動にかなり時間がかかるため、簡素化が必要である。





タブレット PC の動画記録機能と Google Forms のアンケート機能を用いたロールプレイ活動における自己調整を図る工夫
(NEW HORIZON English Course 1 Unit 5 A Japanese Summer Festival)

- ①話・発 ②協・整 ②協・制 ②評価 ③タブ

【ここがポイント！】

- ①「動画記録機能を活用したセルフモニタリング」
タブレット PC (Windows 10) の動画記録機能を使い、生徒一人一人が自分の言語活動の様子を記録し、その場で視聴する。
- ②「Google Forms のアンケート機能を活用した相互評価によるフィードバック」
ロールプレイ等の言語活動について、Google Forms のアンケートフォームで生徒同士が相互評価を行う。指導者は得られた情報を取りまとめ、指導者からの評価や助言とともに、生徒一人一人にフィードバックする。
- ③「継続的なモニタリングを通じた自己調整」
①、②の一連のフィードバックを継続的・複合的に行うことで、自己評価能力を向上させ、自己調整を図ることができるようにする。

【実践の目標】

学習した語句や文などを意味のある文脈の中で、インプットとアウトプットを繰り返し行い、その様子をモニタリングすることで、英語表現の質を高め、即興で表現する力を高める。

【実際の場面】

1. 教科書の記述に頼らず、リスニングに集中して内容を把握する
教科書を閉じて音声を数回聞いた後、Picture Ordering に取り組んだ。その後、指導者がデジタル教科書の Picture Card で作成した PPT を使い、Oral Introduction による答え合わせを行った。(スクリプトの概要把握)

2. モデル音声を基に発話の個別練習を行う
Lentrance もしくは Teams にアップロードしたモデル音声をヘッドセットで聞きながら、発話トレーニングを生徒の自己選択で行った。本単元では、パラレルリーディング→(コンテンツ) シャドーイング→レシテーションの順に負荷を高めた。



3. グループで前回の活動の振り返りを行う
リーダーを中心に、前回のロールプレイ (ここでは Unit 4) の良かった点と課題点を改めて振り返り、今回の重点ポイントを話し合った。

4. グループで役割分担 (Role-sharing) を行う
グループで、ロールプレイの役割分担を行った。また、ストーリーの文脈に合った表現にするためにはどうすれば良いかを話し合った。

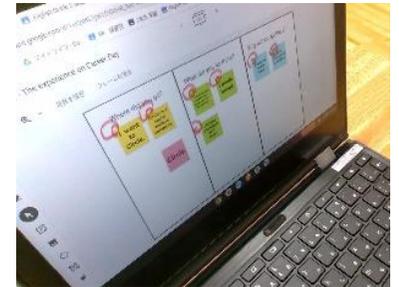
5. グループと個人の目標を設定・修正する
単元ループリックに沿ってグループ目標を設定・修正した。また、グループ目標を踏まえ、個人目標と目標達成のための手立てを、Google スプレッドシートにそれぞれ入力した。(相互に閲覧が可能に一覧とした。)

6. リハーサルの記録動画を全員で視聴し、気づきや改善点等を出し合った上でパフォーマンスを行う
グループでの打ち合わせの後、スタンドに固定したタブレット PC でリハーサルの動画を記録した。グループでその動画を視聴し、気づきや改善点等を出し合った。それを踏まえてパフォーマンス (本発表) を動画で記録し、成果物として Teams にアップロード (提出) した。

7. 各グループのパフォーマンスの記録動画を視聴し、相互フィードバックを行う
タブレット PC で各グループの記録動画を個々に視聴し、Google Forms で相互評価を行った。

【成果と課題】

- 【成果】
- 動画記録機能やアンケート機能を活用することで、手軽にセルフモニタリングを行うとともに、継続的に相互評価等をフィードバックできた。その結果、よりの確な自己分析を行ったり、主体的に自分の英語表現の質を高めたりする生徒が増えた。
 - 単元ループリックを共有した上で、言語活動の目標と目標達成のための手立てを自己決定させることで、言語活動に対する意欲が向上し、主体的な学びが促進された。
- 【課題】
- 生徒が提出した評価を指導者が整理するため、授業時間内でのフィードバックができていない。今後は、即時にフィードバックする手法にも挑戦したい。



まとまりのある英語を話すための指導における Google Jamboard の効果的な活用方法

(NEW HORIZON English Course 2 Unit 3 My Future Job)

①話・発

①統合

②個・表

②個・学

③タブ

④Google Jamboard

【ここがポイント！】

①「自分の考えや気持ちを整理するための Jamboard の活用」

本単元では、自分の体験をA L Tに伝えるという課題を設定し、生徒は自身の体験を発表スライドにまとめ、発表する。本校の生徒の多くが「まとまりのある英語を話す」ことを苦手としており、自分で文章を構成することが難しい。そのため、事前に作成している英文が書かれた付箋を Jamboard に貼りながら、まとまりのある文章になるように自分の考えを整理していく。

②「教師の個別支援」

生徒一人一人の様子を授業内で確認しきるのは難しいが、Jamboard を使用することで、いつでも生徒の Jamboard (思考)を確認することができ、アドバイスをすることもできる。それをもとに、次の時間に自分の考えに変更を加えることもできる。

【実践の目標】

自分が職場体験学習で体験したことや学んだことについて伝えることができる。また、これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考え、伝えることができる。

【実際の場面】

1. 職場体験学習における体験内容を Jamboard にまとめる。

“Where did you go? What did you do on Career Day? Why did you go there?” という質問に対して各自が考えをまとめる。

2. 職場体験学習を通して学んだことを Jamboard にまとめる。

“What did you feel?” という質問に対して各自が考えをまとめる。



3. 将来の夢について Jamboard にまとめる。

“What is your dream? What do you want to do? Who do you want to be like?” という質問に対して各自が考えをまとめる。

4. 夢の実現のために必要なことを Jamboard にまとめる。

“What do you need to do to realize your dream?” という質問に対して各自が考えをまとめる。

5. Jamboard をもとに発表スライドを作成する。

事前に作成した個人の Jamboard をもとに、職場体験の写真を使いながら、発表スライドを作成する。

6. ペアで発表の練習をする。

作成した発表スライドを使ってペアで発表の練習をし、相互評価をしながら自分の発表内容を改善する。

7. パフォーマンステストを行う。

作成した発表スライドを使って、A L Tに自分の体験を発表するとともに、その内容に対してA L Tや友人から評価を受ける。

【成果と課題】

【成果】

○生徒が発表スライドを作成する活動を通して、何から考えればよいのか、何を伝えればよいのかなどについて、理解を深めることができた。また、Jamboard を使うことで、自分の考えをまとめやすくなることに気づくことができた。

○授業内のみの支援だけでなく、授業以外の時間においても、生徒の Jamboard を確認し、アドバイスをすることができた。

【課題】

○作成した Jamboard の内容を「線 (文全体)」ではなく「点 (一文)」で認識している生徒もあり、そのような生徒への更なる支援が必要であると感じた。

Chromebook を活用した夏休みの思い出紹介と発表練習の工夫 (NEW HORIZON English Course 1 Unit5 A Japanese Summer Festival)

①話・発

②個・表

③タブ

③デジ教

④Google スライド

【ここがポイント！】

①「写真や動画の活用」

夏休みに体験したことを写真や動画で撮影し、Google ドライブに保存する。それを Google スライドに貼り付けて紹介できるようにする。自分の体験を写真や動画で紹介することで意欲も高まり、学校外での体験を共有することができる。

②「発表練習の工夫」

相手に伝わるように話しているかを確認するために「スピーカーノートを音声入力」機能を使う。まずは教科書の本文を音読し、音声入力された英語と比較する。正しく入力されていない場合はどう改善すればいいかを考えながら繰り返し練習する。次に、作成した夏休みの思い出スライド（写真と動画のみ）を見ながら話して音声入力をする。交流後はスライドに紹介動画も挿入して指導者に提出する。

【実践の目標】

夏休みの思い出を写真や動画を使ったスライドでまとめ、相手がわかりやすいように、見せ方や話し方を工夫して紹介することができる。

【実際の場面】

1. 夏休みに体験したことを写真や動画で撮る。

教科書本文を参考に、どこに行ったのか、何が楽しかったのか、何を食べたのか、その体験はどうだったのか（楽しかった、おいしかったなど）を紹介できるようにイメージをもった。

2. マインドマップを作成する。

自分の夏休みの思い出で一番伝えたい話題をキーワードで1つ選び、マインドマップを作成した。

Summer Vacation Report

📷🎥 my summer vacation 📷🎥

3. 夏休みの思い出を紹介するスライドを作成する。

自分が撮った写真や動画を Google スライドに貼り付けた。写真の順番やデザインも考えた。

4. スライドとマインドマップを見ながら話す練習をする。

「スピーカーノートを音声入力」機能を使って、スライドを見ながら話す自分の英語をチェックした。相手にどう伝わるのかを意識することができた。

5. ペアで紹介し合い、改善する。

スライドを見せながら紹介し合い、よかったところや改善点を話し合った。もらったアドバイスや気づいたことをふまえて修正した。

6. 全体で交流し、ALTに紹介した後、振り返る。

前回とは違うペアやALTに自分の夏休みの思い出を紹介したり友だちの発表を聞いて感想や質問を伝えたりした。

7. 評価を行う。

後日、教師用フォルダに提出されたスライド（紹介動画入り）について指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

- Chromebook 以外の端末で撮影した写真や動画も使用したことで、生徒の日常生活の様々な場面について話すことができた。ICT機器の操作技術も向上した。
- 「音声入力機能」を活用したことにより、自分が話している英語がどう聞こえているのかを生徒が意識するようになった。また、書くことは苦手でも話すことができる生徒には、自分の話した英語が正しい文字で表示されることで、活動への意欲を高めたり自信をもたせたりすることができた。

【課題】

- 音声入力機能や動画挿入などICT機器の操作に時間がかかる生徒がいる。慣れていくためにも様々な教科や学校生活で活用する場も設ける必要がある。

三原市立久井中学校



一人1台端末を活用したALTに向けた質問映像の制作 (NEW HORIZON English Course 1 Unit3 Club Activities)

尾道市立瀬戸田中学校

①話・発

②個・学

②協・整

③タブ

③TV

【ここがポイント！】

①「Google Jamboard の活用」

Google Jamboard を利用し、どのような英文だとALTの先生が返事をしたくなるか、どのような映像だと伝わりやすいかを全体で交流する。生徒は映像を撮影する時も、何度もこのJamboardを確認しながら、より良い映像になるように練習する。

②「タブレットの活用」

ALTへの質問映像を撮影する際に、単語の発音や表情などを何度も確認し、練習を行う。個人だけでなく、ペアやグループの人にアドバイスをもらいながら、撮影を進めていく。自分の話す英語を客観視できるため、改善しようという意欲に繋がる。

【実践の目標】

自分の自己紹介とともに、ALTの先生について知りたいことを英語でたずねる質問映像を制作することができる。

【実際の場面】

1. ALTの先生について知りたいことを考え、イメージを広げる
ALTの先生について知っていることを整理し、聞いてみたい情報を整理した。

2. 質問映像で実際に話す英文を考える

Google Jamboard を活用し、質問だけでなく、自分の自己紹介や質問に関するプラスの情報を入れることが大切であることを確認し、質問映像で話す英文を考えた。

どうやったらもっとザック先生のことを意識した質問ビデオになるだろう？
簡単に言うけどどんな英語が加わったら、相手が答えたくなくなる質問ビデオになるだろう？

笑顔 で！	笑顔 が 見える	笑顔 が 見える	笑顔 が 見える	笑顔 が 見える	笑顔 が 見える
名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください
名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください
名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください	名前を 教えてください

3. 完成した英文をもとに、質問映像を制作する
タブレットで質問映像を撮影した。生徒自身で気づいた改善点があれば、質問映像を撮り直した。

4. ペアや班で質問映像を見直し、改善点を共有する
ペアや班の人たちからもらったアドバイスを参考に、質問映像を撮り直した。

5. 大型TVを使用し、フィードバックする
教師の例を見ることによって、ペアや班の仲間からのアドバイスでは出てこなかった改善点に気づいた。

6. 最後の質問映像を制作し、動画を提出する
これまでに確認してきた改善点やフィードバックを基に、実際にALTに見てもらおう映像を制作し、Google Classroomに提出した。

7. 評価を行う
後日、Google Classroomに提出された映像を見て、指導者がフィードバックを与えた。

【成果と課題】

【成果】

- 英語を用いた言語活動の量を増やすことができた。
- 生徒は自身のパフォーマンスを客観視することで、改善しようとする意欲が向上した。
- 指導者が何度も映像を見ることができ、学習評価の精度を上げることができた。

【課題】

- 質問の文章が作れない生徒への支援が、不十分であった。



Chromebook を活用した自己紹介のプレゼンテーション (New Horizon English Course 1 Unit 1 New School, New Friends)

①統合

②個・学

②評価

③タブ

④ロイロノート

【ここがポイント！】

①「ロイロノートの活用」

自己紹介の英文を書いたカードを作成する。その後カードを基に動画を作成して、小学校6年生時の担任の先生に送る。

②「自己紹介する相手を替えて、表現内容を考えさせる」

最初にALTに3文程度の英文で自己紹介する。その際の評価を基に自己紹介文の書き直しをする。次に自己紹介する相手をALTから小学校6年生時の担任の先生に替えることで、適切な表現内容を考える。書いた英文についてペアで英語でのやり取りをし、その内容を基に書き直しをする。

③「発表練習の工夫」

動画を撮影する前に、自己紹介文をペアで読み合う。また、動画を撮影して自分で見ることによって自己評価をして改善点を見付ける。

【実践の目標】

習った英文を使って自己紹介の動画を作成して、相手にわかりやすく伝えることができる。

【実際の場面】

1. ALTに自己紹介する英文を3文程度書き、自己紹介をする。

2. ALTに自己紹介した際の評価を参考にして、自己紹介する相手を替え（小学校6年生時の担任の先生）、紹介文をロイロノートのカードに書き直す。



3. カードに書いた英文をペアの相手に向けて発表し、練習する。

4. 聞いた内容について、もっと知りたいことなどを英語で質問したり答えたりする。やり取りを基に自己紹介文に書き加え等をする。

5. 書いた英文をペアで読み合っ改善点等を交流する。また、動画を撮影して自分で改善点を見付ける。

6. 自己紹介の動画をロイロノートに撮影し、小学校の先生に送る。

7. 自己紹介のカードと動画を提出させ、評価を行う。

【成果と課題】

【成果】

- 自己紹介する相手を替えることで、相手に応じて何をどのように伝えればよいか表現内容や伝え方を考える場面を設定することができた。
- 小学校6年生時の担任の先生からメッセージをもらうことで、生徒は意欲をもって活動することができた。また、小学校での学びをつなぐことができた。
- 動画を繰り返し見返す場面を設定することで、主体的に学習に取り組む態度を育成することができた。

【課題】

- ICTをより効果的に活用する方法について考える必要がある。

府中市立上下中学校



Google Jamboard を活用した「話す」活動 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 PROGRAM 2 1-B の生徒たち)

①話・発

②協・発

③タブ

④Google Jamboard

【ここがポイント！】

【Google Jamboard による思考の整理】

Jamboard の付箋機能を活用し、自分の「放課後の過ごし方」を紹介するためのキーワードを日本語で入力する。また、そのキーワードを用いてつながりのある内容にするためには、どの順番で伝えたらよいかを考えさせる。つなぎの言葉 (and, but, so, because など) も画像に加工して動かせるようにし、キーワードとキーワードをつなぐイメージを視覚的に捉えさせる。

【実践の目標】

聞き手に分かりやすいように順序を工夫して、自分の放課後（または週末）の過ごし方を英語で紹介することができる。

【実際の場面】

1. 自分の「放課後の過ごし方」についてキーワードを入力し、そのキーワードをどの順番で伝えるかを考える。

思いつくキーワード (卓球, 楽しいなど) を付箋で Jamboard に貼った。また、キーワードとキーワードをつなぐために、どのつなぎの言葉をどこで使うのかを個人で考えた。



2. ペアで「放課後の過ごし方」について紹介し合う。

キーワードとつなぎの言葉を使い、英文で紹介し合った。Jamboard は相手に見せず、自分のキーワードや順序の確認のために使用した。

3. グループで表現について分からないことを解決する。

1 回目のペア活動で、うまく表現できなかったところを調べたり、より分かりやすくするための順序をグループで話し合ったりした。

4. 修正した内容で、新しいペアの人と紹介し合う。

グループで互いに話し合ったことを基に、もう一度紹介する活動を行った。その後、難しかったことや分からなかったことを全体で共有しながら、ペアの組み合わせを変えて2回紹介する活動 (計4回) を行った。

5. 話したことを、英作文で再現する。

話した内容について、つづりや語順の正しさ、つなぎの言葉の位置を意識しながら英作文をした。

6. ALT とのパフォーマンステストを行う。

「週末の過ごし方」にトピックを変え、ALT に一人一人紹介した。ALT からは内容に関連した質問をしてもらい、即興で2文で答えるようにした。指導者はALT と一緒に内容や姿勢について評価した。

【成果と課題】

【成果】

○相手に分かりやすく伝えるための順番を考えさせるのに、Jamboard の中でつなぎの言葉も動かせるようにしたことが効果的であった。

○Jamboard を活用することで、ペアを変えて紹介することに内容の修正が容易にでき、回数を追うごとに内容の質が高まった。

【課題】

○Chromebook のキーワードを見ながら活動してしまい、アイコンタクトがおろそかになってしまう生徒が多くいたため、事前の指導が必要であった。

○単元末のパフォーマンステストは録画して提出させ、指導者が発音など細かいところまで生徒一人一人にフィードバックできれば良かった。

世羅町立世羅西中学校

My after school
私の放課後の過ごし方

走る 陸上部 楽しい メンバークラス 楽しい 楽しい
because is because but
so and also



オーストラリアの姉妹校との Web 会議までの一連の活動

【Welcome to Sanwa Junior High School .】

(New Crown English Series 3 Project 1 日本限定アイスクリームを提案しよう)

①話・発

②協・遠

③タブ

③Web カメ

④Zoom

【ここがポイント！】

①「Zoom を活用して、海外の中学校と情報発信や意見交換」

Zoom を活用して、オーストラリアの姉妹校の中学生と自国の文化や特産品・流行・中学校生活などを紹介したり、簡単な意見の交流をしたりする活動を設定する。

②「タブレット端末の録画・再生機能の活用」

Web 会議で実際にやり取りする前に、発表が相手に効果的に伝わっているか確認するために、グループでの練習後にリハーサルを実施する。その際には他グループが発表を録画して、録画後に発表を一緒に見合ってコメントやアドバイスをもらうようにする。

【実践の目標】

自分で目標を立てたり仲間と協力したりして、コミュニケーション活動や発表練習に取り組むことができる。日本文化等について、事実や自分の考えを整理し、既習事項を用いて、相手に分かりやすく紹介することができる。

【実際の場面】

1. パフォーマンス課題を把握する。

今回のパフォーマンス課題が何か、そして、紹介文を作成する際の心構えについて把握した。

2. タブレット・書籍等を活用して情報を整理する

グループ内で分担して、タブレットや書籍等で、自分たちが選んだトピックについて調べて情報を集めたり、自分(たち)の考えを整理したりした。



3. 内容にまとまりのある紹介文を書く。

日本文化等についての紹介文のモデル原稿を参考にして、構成や書き方のコツをつかんだ後に既習事項や未習の調べた表現なども活用して、英文を作成した。

4. プレゼンテーションソフトで視覚資料を作成する。

プレゼンテーションソフトを活用して、紹介文に関連する視覚に訴える資料を作成した。(グループによっては実物を準備した。)

5. ALT・JTEに対して発表をする。

ALT等を相手にグループで発表を行った。ALTやJTEからのアドバイスで、内容・声量・発音・スピード・プレゼンテーションソフトや実物提示の仕方等について良い点・改善点を把握し、内容等を再考した。

6. グループ内外での交流をする。

リハーサルを行い、他グループが発表をタブレットに録画した。その後、録画した発表を一緒に見合って自己・他者評価を行った。

7. 自己・他者評価を基に、発表の修正・改善を図る。

仲間からのアドバイスや他者の発表の良さを参考にし、自分達で発表を修正・改善した。

【成果と課題】

【成果】

- タブレットで発表を録画したものを、すぐ自分達で視聴し相互に振り返らせることで、客観的に自分達の発表を分析することができ、発表内容の質が向上した。
- 生徒にとって未知の課題「Web 会議」という活動を単元に位置付けることで、Zoomを通して姉妹校の生徒達と互いの顔を見ながら実際に交流し、生きた英語に触れることができ、コミュニケーション能力の向上や国際感覚の育成につながった。

【課題】

- 日本文化等の紹介後、姉妹校の生徒達から質問があった時、予想出来る質問には対応できても、予想外の質問等に対しては、即興的に対応することに困難を感じていた。場に応じて、自分の伝えたいことを発信する力の育成が必要である。

神石高原町立三和中学校



タブレットを活用した名言紹介までの一連の活動と学習評価 (Here We Go! ENGLISH COURSE 3 Unit 3 Lessons From Hiroshima)

①話・発

②個・表

③タブ

③TV

④ロイロノート

【ここがポイント！】

④Google スライド

①「タブレットを活用したスピーチ力の向上」

スピーチ練習時に、互いのスピーチの様子をタブレットで録画し、自らの姿から改善点を見だし、スピーチ力の向上やスピーチ内容の改善につなげることができる。

②「ロイロノートを活用したプレゼンテーション」

ただスピーチを聞くだけでは聴衆が内容理解をすることが難しいので、ロイロノートの付箋機能を活用し、モニターにキーワードを提示することで、聴衆がより正確に内容把握することができる。

【実践の目標】

ロイロノートの付箋機能を用いて、自分が紹介したい著名人についての情報（人柄や名言等）を原稿を見ずに、聞き手に正確に伝えることができる。

【実際の場面】

1. 情報を収集する

自分が紹介したい著名人についての情報（人柄や名言等）をインターネットで収集した。

2. ロイロノートの付箋機能を活用して、情報を整理する

ロイロノートの付箋にキーワードを記し、スピーチの順序を整えた。

3. スピーチ原稿を作成する

既習事項を活用して、自分が紹介したい著名人についてのスピーチ原稿を作成した。

4. 家庭等でスピーチを録画する

授業中や家庭等でスピーチ練習をし、自分自身のスピーチをタブレットで録画した。

5. グループで録画したスピーチを見せ合い、Google スライドで相互評価する

4で録画した自分のスピーチしている姿をグループで見せ合い、Google スライドに良い点と改善点を相互評価した。

6. スピーチの改善

他者のスピーチを参考にしたり良い所を取り入れたりして、5で出てきた改善点を克服し、自らのスピーチをより良いものにした。

7. スピーチ発表会〈評価〉

大型モニターにロイロノートの付箋を提示し、生徒とALTの前で発表した。生徒同士による相互評価、JTE・ALTによる評価を行った。

【成果と課題】

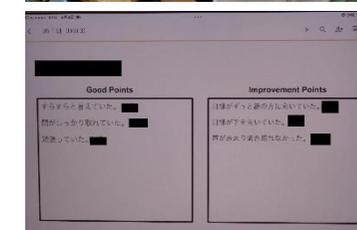
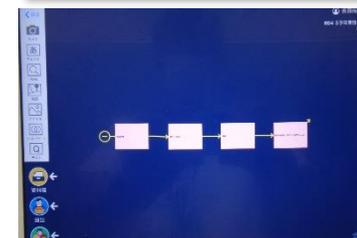
【成果】

○タブレットで相互録画したので、良い緊張感の中でスピーチの練習ができた。スピーチをしている自分の姿を複数回、複数のパターンで見ること、課題を多く見いだすことができ、自らのスピーチをより良いものにすることができた。

【課題】

○ICTの活用に関して、指導者自身の更なるスキルアップと、どの場面で活用すれば、より効果を得られるのか研修することが必要である。

三次市立塩町中学校



動画やドキュメントを活用したプレゼンテーションの工夫
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 Our Project 4 「夢の旅行」を企画しよう)

① 話・発

① 統合

② 個・調

② 協・発

③ タブ

【ここがポイント！】

④ Google ドキュメント

① 「動画撮影による変容の見取り」

生徒は、お勧めの旅行先についてインターネットで収集した情報をもとにメモを作成し、紹介動画を撮影する。ALTにその動画を見た感想や質問を紙に書いてもらった後、生徒は、ALTからの感想や質問を参考にインターネットで情報を再収集し、より行きたいと思ってもらえるプレゼンテーションになるよう再度動画を撮影する。前回撮影した動画と比較することで、自己評価し改善できる。

② 「Google ドキュメントを活用した友達からのアドバイス」

伝えたいけれど英語での表現が分からないときは、Google ドキュメントに日本語の文を書き込んで共有し、英語でどのように表現すればよいか互いにアドバイスをし合って協働的に解決する。

【実践の目標】

ALTが行きたいと思う海外旅行先の企画をペアで考え、プレゼンテーション資料を作成し、ALTに分かりやすくプレゼンテーションすることができる。

【実際の場面】

1. インターネットでお勧めの旅行先の情報を収集する

ALTへ質問し、大まかな旅行先を決定した後、インターネットでその場所の情報を調べ、9つのマスにキーワードでメモを書いた。

2. プレゼンテーション資料を作成し、ALTへ向けた動画を撮影する

収集した情報を整理し、プレゼンテーション資料を作成した。作成した資料を使ってメモを見ながら動画を撮影し、ALTに見せてアドバイスをもらった。



3. 教科書の表現を確認し、他のペアと会話する

教科書のモデル文から文の構造や役に立つ表現を理解した。他のペアと会話をしながらお勧めの旅行先について、事実や自分の気持ちなどを整理した。

4. より良いプレゼンテーションにするための工夫をする

ALTからのアドバイスをもとに、より良いプレゼンテーションにするために加えるとよいこと(味や歴史などの具体的な情報を入れる等)を考えた。その際、分からなかった英語表現等をドキュメントで共有し、友達からアドバイスをもらった。アドバイスをもとに改善したものを動画で撮影し、より良いプレゼンになっているか確認した。

5. ペアで練習をする

ペアで1つのプレゼンテーションを作成し、一貫性のあるプレゼンになっているかを考え、練習した。他のペアに見てもらい、発表の仕方を含め、改善点を確認しながら練習を重ねた。

6. ペアでプレゼンテーションを行う

ALTにプレゼンテーション資料を見せながら、ペアで発表した。発表後、ALTからの質問に生徒が答えた。見ている生徒は、自分ならどこに行きたいかを考えながらメモし、その内容を共有した。



【成果と課題】

【成果】

- 動画をALTに見てもらい、アドバイスをもらうことで、生徒はより良い紹介にするために必要なことを具体的に学ぶことができた。
- タブレットのドキュメント機能を使って友達が分からない表現をみんなで考えることで、学習への意欲が高まった。
- ALTからアドバイスをもらう前後の変化を動画で見ることで、自己の変容を客観的に感じ取ったり、改善につなげたりするなど、言語活動の質の向上につながった。

【課題】

- 教師自身がタブレットの有効性が見通しがもてず、操作にも慣れていないため、操作に時間がかかった。生徒も初めての操作だったため、教師が使い方をもっと研究し、教師も生徒もまずは操作に慣れる必要がある。